

気まぐれトピックス

2016年03月号（真空管のおはなし）

写真は、旧ソ連の3C33-Bと呼ばれる古い軍用真空管です。



見るからに頑丈そうな構造です。
真ん中は、大きさ比較のために置いた
MT管です。
3極管で、ヒータ電流は6.2Aも
流します。プレートの超低インピーダンスが特徴です。

約30数年前に、北海道の函館空港へ、当時旧ソ連軍の最新型戦闘機で、まだベールに包まれた存在であったMig25が、ソ連や日本のレーダー網をかいくぐって突如飛来し強行着陸して、その搭乗員が米国へ亡命する大騒動がありました。

当時Mig25は、マッハ3以上の高速高性能とされ、その詳細は不明で、当時の米国の主力戦闘機（F4ファントム）では歯が立たないとと言われていたそうです。

喜んだ米国は、さっそく日本の何処かに運んで詳細に分解調査の後、機体を丁重に返還した由がありました。

そして巷で、その後漏れ聞いたヤジ馬報道では；

- 1、主たる機体材料は、軽量高強度のチタン合金などが多用されているだろうと予想されたが、普通の鉄板（ステンレス）であったと。
- 2、エンジンは何の変哲もないターボファンエンジンであったと。
- 3、さぞかしハイテクシステムと予想したが、そこに積まれていたのがこの3C33-Bと言う真空管であったと。

この話に少々興味を持ち、当時秋葉原で比較的安価で大量に売られていたのであてもなく衝動買いしていたものです。

オーディオアンプに適し、夜景が絶妙と言われるので、今年はこれで適当なオーディオアンプでも作って遊んでみようかなあと思う今日この頃であります。



函館に突如飛來したMig25（西側では、フォックスバットと呼んでいました。）